

NEWS NEWS NEWS ニュース

2000年度日本語能力試験

昨年12月3日(日)に、2000年度の日
本語能力試験が、国際交流基金、(財)日本
国際教育協会の共催で実施されました。

この試験は、日本国内外において、原
則として日本語を母語としない人を対象
に、習得した日本語の能力を客観的に測
定し、その能力を認定することを目的と
しています。1984年から実施されており、
今回で17回目を迎えました。

今回は国外35の国・地域の82都市、日
本国内6地域で実施され、総計234,994
人(昨年度比約20%増)の応募者があり
ました。

各級の応募者数については別表のとおり
です。

	級別	2000年度 応募者数(人)	1999年度 応募者数(人)	伸び率 前年度比(%)
国 外	1級	40,115	32,591	23.1
	2級	52,810	43,872	20.4
	3級	57,921	47,287	22.5
	4級	38,382	34,119	12.5
	小計	189,228	157,869	19.9
国 内	1級	28,637	23,416	22.3
	2級	9,395	7,379	27.3
	3級	5,005	4,832	3.6
	4級	2,729	2,541	7.4
	小計	45,766	38,168	19.9
合 計		234,994	196,037	19.9

なお、2001年度の日語能力試験は12
月2日(日)に実施される予定です。

試験実施の詳細については、7月頃に

*この欄にふさわしい情報やニュースがありましたら、下記までお寄せください。

国際交流基金日本語国際センター情報交流課

〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36

Research and Information Division, The Japan Foundation Japanese-Language
Institute, Urawa, 6-36 Kita-Urawa 5-chome, Urawa-shi, Saitama 336-0002, Japan

下記までお問い合わせ下さい。

国外：

国際交流基金関西国際センター試験課

〒598 0093大阪府泉南郡田尻町

りんくうポート北3 14

Tel : 0724 90 2603

Fax : 0724 90 2803

E-Mail : jlptinfo@jpf.go.jp

国内：

財団法人日本国際教育協会

事業部日本語・統一試験課

〒153 - 8503東京都目黒区駒場4 5 29

Tel : 03 5454 5215

Fax : 03 5454 5235

衛星通信を用いた日本事情の授業

当センターは、平成9年度からポスト
パートナーズ計画の実験に参加していま
す。これまでは、海外のセンターや大学
などと、会議や研修生へのインタ
ビューなどをやってきましたが、平成12
年度の実験では、9月14日
に、フィリピンのアテネオ・
デ・マニラ大学と衛星を用
いた初の遠隔日本語授業を
実施しました。来日経験の
ない初級レベルの日本語学
習者を対象に、日本事情紹
介を目的としたクイズ形式
の日本語授業を行いました。
出題は全部で12問、伝統文
化、食べ物、現代日本の流
行、漢字の知識など、問題

はいろいろでした。正解を示したあと、
振袖姿の女性の簡単な茶道デモンスト
レーションや、三味線の生演奏などを
もりこむことで、日本事情の知識のイン
プットも行いました。衛星を使用した授
業の将来性、可能性を探るという実験目
的のため、様々な機材を使って(実物投
影機、OHP、ビデオなど)映像にも様々
な工夫をこらしてみました。例えばきれ
いな桜の写真はどの程度見えるか、生
の三味線の音はどのように聞こえるか、ビ
デオの音とどう異なるかなどです。フィ
リピンの学習者の方々は、グループで相
談してクイズに答えましたが、とても高
い正答率でした。ここで問題を一部紹介
します。「生け花に使う器は次のうちど
れ?」「独身の女性が友人の結婚式に出
席する時に着る着物は次のうちどれ?」「
この楽器の音は鼓?三味線?笛」「日本
の4つのアニメのうち一番古いものは?
」...など。



○ 編集部から ○

新しき 年の初めの 初春の

今日降る雪の いや重け吉事

これは、万葉集(奈良時代の歌集)の
最後を飾る大伴家持の歌です。お正月に、
降りしきる雪を見て作った歌で、「雪が
どンドン降り重なるように、よい事も
たくさん重なってほしい」という願いがこ
められています。1200年以上昔の歌で
すが、21世紀最初の「日本語教育通信」
発行にあたり、この歌をご紹介します。皆
さんの21世紀に、良いことがたくさんあ
りますように。

昨年秋に中国へ行く機会があり、小学

校や中学校、高校の日本語の授業を見学
しました。地域により、また学校のタイ
プにより、日本語学習の環境も目的も
様々でしたが、どの学校でも、生徒がと
ても熱心に授業を受けていたのが印象的
でした。また、日本へ行ったことはなく
ても、流暢に日本語を操る先生も多く、日
本語教育が、現場にいる熱心な先生方に
支えられているということ、あらためて
認識しました。(情報交流課 亀山知美)

(お詫び)下記の2点につきお詫びいたします。

1. 第38号のp.10「ホテルの実務日本語1」の
著者として、共著者である和美・スイー
チャカフーン氏のお名前が欠落しておりました。
2. 第38号の表紙イラストでハングル文字を
掲載していますが、文字に間違いがありま
した。

『日本語教育通信』 第39号

2001年1月発行

発行・編集 国際交流基金

日本語国際センター 情報交流課

〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36

The Japan Foundation

Japanese-Language Institute, Urawa

(6-36 Kita-Urawa 5 chome, Urawa-shi,

Saitama 336-0002, Japan)

TEL 048 834 1184 FAX 048 830 1588

E-Mail jfnckt@jpf.go.jp

編集協力

財団法人 国際文化交流推進協会

Assoc. ACE Japan (Japan Association for
Cultural Exchange)

© 2001 by The Japan Foundation

(表紙イラスト：村井宗二)